

【 専門分野 】 小児看護学 6単位 195時間

I. 科目構築の考え方

子どもの健やかな成長・発達は人類共通の願いであり、そのために小児看護が果たす役割は大きい。特に少子超高齢社会を迎えて、子どもを取り巻く環境は急速に変化している。

小児看護学は、ライフサイクルの小児期にある対象とその家族を保健・医療・福祉の連携・協働と地域一体となって支える看護を学ぶ。子どもは、大人への成長・発達の途上にあり、絶えず成長・発達を続けている。また、生活を維持するために親あるいはそれに代わる保護者を必要とし、養育的環境の中で育まれる権利をもっている。その子どもの成長・発達の段階と特徴を理解し、社会全体で次世代を健全に育成する必要がある。現代の子どもと家族の特徴およびその地域・環境をより広い視点でとらえ、変化する社会の中で子どもの基本的人権を守り、子どもの胎生期からの成長・発達段階を深く理解する内容として小児看護学概論を設定する。次に、ライフサイクルにおいて子どもとその家族が直面する特徴的な健康問題と治療を理解し、保健・医療・福祉の連携・協働によって健康の保持・増進および疾病の予防、健康の回復をめざす小児看護の役割・機能を理解する内容として小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱを設定する。小児看護学実習では、子どもの健やかな成長・発達、子どもの健康レベルに応じた看護、子どもの権利擁護を尊重した活動、子どもと家族を支えるコミュニティや地域活動について学ぶ内容として（地域で生活する健康な子どもとその家族の支援）と（健康問題のある子どもとその家族の支援）を設定する。

II. 目的・目標

1. 目的

絶えず成長・発達を続けている子どもの生理的特徴および健やかな成長・発達を促進するための環境や養育のあり方、ライフサイクルにおける特徴的な健康問題と治療を理解し、保健・医療・福祉の連携・協働による健康の保持・増進および疾病の予防、健康の回復（障害を含む）をめざす小児看護の役割・機能を理解する。

2. 目標

- 1) 子どもの生理的特徴と小児各段階の成長・発達について理解できる
- 2) 子どもと家族の特性およびその環境を理解し、小児保健の動向や健康な子どもの養育について理解できる。また、小児看護の目的、役割、現状を理解できる
- 3) 小児医療の特殊性を理解できる
- 4) 既習内容を基盤として、子どもに特徴的な健康問題と治療を理解できる
- 5) 基本となる小児看護技術を理解できる
- 6) 子どもに見られる主な症状と看護を理解できる
- 7) 健康問題の経過の特徴と看護の展開を理解できる
- 8) 子どもと家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護を理解できる
- 9) 子どもの特性に着目し、病態・治療の経過に応じた看護について理解できる

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
小児看護学 6 単位 195 時間	小児看護学概論 (1 単位 15 時間)	小児看護の特徴と理念 (2)
		子どもの成長・発達 (2)
		新生児・乳児・幼児・学童期・思春期・青年期の成長・発達 (6)
		子どもと家族 子どもと家族を取り巻く社会 (4)
		子どもの人権 小児看護の課題 (2)
	小児看護学方法論Ⅰ (1 単位 30 時間)	胎生期・新生児に特徴的な健康問題と治療 (2)
		子どもに特徴的な健康問題と治療 (28)
	小児看護学方法論Ⅱ (2 単位 60 時間)	小児看護技術 (8)
		検査・処置を伴う看護技術 (4)
		症状別にみる子どもの看護 (4)
		状況別にみる子どもと家族の看護 (12)
		健康問題別看護 (22)
	事例演習 (10)	
	小児看護学実習 (2 単位 90 時間)	地域で生活する健康な子どもとその家族の支援 健康問題のある子どもとその家族の支援

IV. 授業の概要 (シラバス)

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	小児看護学概論 1 単位 (15 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	剣持 葉子 肥前精神医療センター教育研修係長						
授業概要	小児看護の対象である子どもとその家族を理解し、子どもの生理的特徴と小児各段階の成長・発達を学ぶ。また、子どもや家族を取り巻く社会の変化や小児保健の動向、子どもに関する法律や政策についても理解し、小児看護の目的・役割について学ぶ。						
科目目標	1. 子どもの生理的特徴と小児各段階の成長・発達について理解できる 2. 子どもと家族の特性およびその環境を理解し、小児保健の動向や健康な子どもの養育について理解できる 3. 小児看護の目的、役割、現状を理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院						
参考文献	1. 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 南江堂 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 3. 国民衛生の動向 厚生統計協会 4. 片田範子 こどもセルフケア看護理論 医学書院						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護とは 2) 子どもと家族の諸統計 3) 小児看護の変遷 4) 社会情勢に伴う子ども観の変化 5) こどものセルフケア看護理論			講義		剣持 葉子	
2	2. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響を与える要因 4) 成長・発達の評価			講義・演習			

<p>3～5</p>	<p>3. 新生児の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴 3) 養育及び看護</p> <p>4. 乳児の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴 3) 感覚機能 4) 運動機能 5) 知的機能 6) コミュニケーション機能 7) 情緒・社会的機能 8) 養育及び看護</p> <p>5. 幼児の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴 3) 感覚機能 4) 運動機能 5) 知的機能 6) コミュニケーション機能 7) 情緒・社会的機能 8) 日常生活（基本的生活習慣の獲得） 9) 養育及び看護</p> <p>6. 学童期の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴 3) 感覚機能 4) 運動機能 5) 情緒・知的機能 6) 日常生活 7) 社会的機能 8) 不適應行動・症状 9) 子どもを取りまく諸環境 10) 養育及び看護</p> <p>7. 思春期・青年期の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 生理的特徴 3) 情緒・知的・社会的特徴 4) 生活の特徴 5) 子どもを取りまく諸問題（心・飲酒・喫煙・性・非行・薬物・事故・外傷）</p>	<p>講義・演習</p>	<p>劔持 葉子</p>
<p>6・7</p>	<p>8. 子どもと家族 1) 子どもにとっての家族とは 2) 家族アセスメント</p> <p>9. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 学校保健 2) 予防接種 3) 病児教育 4) 子どもを取り巻く環境と対策 5) 子どもをめぐる法律と政策 (1) 児童福祉 ① 児童福祉の変遷 ② 虐待防止 ③ 子どもの貧困への対策 (2) 母子保健 ① 母子保健の歴史 ② 現在の母子保健</p>	<p>講義・演習</p>	

	(3)医療費の支援 6)ヤングケアラー		
8	10. 子どもの人権 1)子どもの権利 2)子どもの権利擁護 3)小児看護と倫理的配慮 4)生命倫理と小児看護 11. 小児看護の課題 1)疾病構造の変化と小児看護 2)社会の変化と小児看護 (1)子どもの貧困 (2)生きづらさ (いじめ、虐待など) 3)小児看護の専門分化 4)成人診療科への移行支援 (トランジション)	講義・演習	剣持 葉子
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 剣持 葉子

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	小児看護学方法論 I 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	西川 小百合 嬉野医療センター 小児科医師 浦島 真由美 嬉野医療センター 小児科医師 森田 駿 嬉野医療センター 小児科医師 川崎 祥平 嬉野医療センター 小児科医師 院内講師 嬉野医療センター 小児科医師						
授業概要	子どもの特徴に関する知識を基盤に、成人とは異なる子どもに特徴的な健康問題と治療について学習する。子どもの疾患は数多くある。その中でも子どもに特徴的な疾患を学んでいく。小児疾患を学ぶうえで、子どもの器官の解剖生理、病態生理をふまえて理解できるよう学習する。治療に関しては、疾病の経過に応じて変わる治療法について学ぶ。						
科目目標	1. 小児医療の特殊性を理解できる 2. 既習内容を基盤として、子どもに特徴的な健康問題と治療を理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院						
参考文献	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 4. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師		
1	I. 胎生期・新生児に特徴的な健康問題と治療 1. 染色体異常・体内環境により発症する先天異常 1) 染色体異常 (1) 常染色体異常 (2) ダウン症候群 (3) クラインフェルター症候群 (4) ターナー症候群 (5) 脆弱 X 症候群 (6) ネコ鳴き症候群 2) 胎芽病と胎児病 2. 新生児の健康問題			講義	西川 小百合		

	<p>1) 新生児の疾患 (1) 分娩損傷 (2) 適応障害 (3) 感染症</p> <p>2) 低出生体重児の疾患 (1) 脳室内出血 (2) 呼吸窮迫症候群 (3) 未熟児貧血 (4) 未熟児くる病 (5) 未熟児網膜症</p> <p>3) 成熟異常</p>		
2	<p>II. 子どもに特徴的な健康問題と治療</p> <p>1. 代謝性・内分泌疾患</p> <p>1) 新生児マススクリーニング 2) 先天代謝異常症 3) 代謝性疾患 (1) 糖尿病 (2) アセトン血性嘔吐症 4) 下垂体疾患 5) 甲状腺疾患 6) 副甲状腺疾患 7) 副腎疾患 8) 性腺の異常</p>	講義	浦島 真由美
3	<p>2. 免疫疾患・アレルギー疾患</p> <p>1) アレルギーの分類と発生機序 2) アレルギー性疾患 3) 原発性免疫不全症候群</p>	講義	森田 駿
4・5	<p>3. 感染症</p> <p>1) 子どもの感染に対する基本的知識 (1) 感染の基本的知識 (2) 子どもの免疫の特徴 2) 細菌性感染症 3) ウイルス性感染症 4) ワクチン接種</p>	講義	川崎 祥平
6	<p>4. 呼吸器疾患</p> <p>1) 先天性喘鳴 2) 上気道の炎症 3) 気管支・肺・胸膜疾患</p>	講義	森田 駿
7	<p>5. 循環器疾患</p> <p>1) 先天性心疾患 2) 後天性心疾患 3) 川崎病 4) 心臓律動の異常 5) 突然死</p>	講義	西川 小百合
8	<p>6. 消化器疾患</p> <p>1) 口腔疾患 2) 横隔膜の疾患 3) 食道疾患 4) 胃・十二指腸の疾患 5) 小腸・大腸の疾患 6) 腹膜・腹壁の疾患 7) 肝臓・胆道の疾患 8) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎</p>	講義	小児科医師
9	<p>7. 血液・造血器疾患</p> <p>1) 貧血 2) 出血性疾患</p> <p>8. 悪性新生物</p> <p>1) 造血器腫瘍 2) 脳腫瘍 3) 固形腫瘍</p>	講義	浦島 真由美

10	9. 腎・泌尿器疾患 1) 泌尿・生殖器の奇形 2) 腎糸球体疾患 3) 腎尿細管疾患 4) その他の腎疾患 5) 尿路の疾患	講義	川崎 祥平
11	10. 神経疾患 1) 神経系の奇形 2) けいれん性疾患 3) 急性神経疾患 4) 筋疾患	講義	森田 駿
12	11. 運動器疾患 1) 先天性股関節脱臼 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 骨折	講義	川崎 祥平
13	12. 皮膚疾患 1) 母斑 2) 魚鱗癬 3) 汗癬 4) 湿疹・皮膚炎群 5) 細菌性皮膚疾患 13. 眼疾患 1) 感染症 2) 屈折異常 3) 眼瞼の異常 14. 耳鼻咽喉疾患 1) 外耳の疾患 2) 中耳の疾患 3) 鼻及び副鼻腔の疾患 4) 咽頭の疾患	講義	小児科医師
14	15. 精神疾患 1) 発達障害 2) 神経症的障害 3) 精神病的障害 4) その他の行動上の障害	講義	森田 駿
15	16. 事故・外傷 1) 不慮の事故 2) 頭部外傷 3) 誤飲・誤嚥 4) 溺水 5) 熱傷 17. 虐待	講義	小児科医師
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 西川 小百合

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	小児看護学方法論Ⅱ 2 単位 (60 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期																
講師名 所属	上野 敏幸 山田 祐子 中島 優貴 山口 ひかり 塩屋 梓 深川 絢加	嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 佐賀病院看護師 嬉野医療センター看護師 嬉野医療センター看護師 嬉野医療センター看護師	教員 教員	実務経験：看護師 7 年 実務経験：看護師 16 年																			
授業概要	基礎看護学の既習内容と関連づけ、子どもに特徴的な技術と看護について学習する。小児科に特有な発達段階を考慮した説明と同意及び処置を学習する。健康問題のある子どもおよび家族の身体的・社会的・心理的側面について学習する。																						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本となる小児看護技術を理解できる 2. 子どもに見られる主な症状と看護を理解できる 3. 健康問題の経過の特徴と看護の展開を理解できる 4. 重症心身障害児（者）の理解と援助の方法が理解できる 5. 子どもと家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護を理解できる 6. 子どもの特性に着目し、病態・治療の経過に応じた看護について理解できる 																						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院 3. 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 																						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階から見た 小児看護過程 医学書院 2. 看護診断にもとづく小児看護ケアプラン 医学書院 3. 小児看護学 家族への系統的アプローチの実際 医歯薬出版 4. 看護診断ハンドブック リンダ J. カルペニート 医学書院 5. これなら使える看護診断 医学書院 6. 小児看護実習ガイド 照林社 7. チームで支える！子どものプレパレーション 中山書店 8. 片田範子 こどもセルフケア看護理論 医学書院 																						
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>技術確認</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート	○	技術確認				口頭試問		授業態度		出席状況			
筆記試験	○	レポート	○	技術確認																			
口頭試問		授業態度		出席状況																			
授業計画																							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師																	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護技術 日常生活援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔援助技術、排泄援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) おむつ交換、陰部ケア（臀部浴） 2) 衣生活援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 衣生活行動のしつけ 			演習		上野 敏幸																	

	(2) 乳児・幼児の衣服 (3) 更衣時の援助		
2	3) 食事援助技術 (1) 子どもの食事・栄養の目的と意義 (2) 離乳食の援助 4) 清潔援助技術 (1) 発達段階から見る清潔習慣 (2) 清拭・洗髪・口腔ケア 5) 排泄援助技術 (1) 子どもの成長発達と排泄 (2) 排泄のしつけ (トイレトレーニング) (3) おまるの援助 6) 移動の援助技術 (1) 移動に関する基礎知識 (2) 抱っこ・ベビーカー・車椅子・ストレッチャー 7) 環境調整の技術 (1) 子どものための環境調整 サークルベッド	演習	山口 ひかり
3	2. 小児看護技術 小児看護の基本技術 1) コミュニケーション技術 2) プレパレーション技術	演習	
4	3) 身体状態把握のための看護技術 (1) バイタルサイン 体温・脈拍・呼吸・血圧 (2) 身体各部の測定 身長・体重・頭囲・泉門・胸囲	演習	
5・6	3. 検査・処置を伴う看護技術 1) 採血 2) 採尿・導尿 3) 咽頭・鼻腔培養 4) 骨髄穿刺・腰椎穿刺 5) 与薬 (1) 経口与薬 (2) 坐薬 (3) 注射 (4) 輸液管理 (5) 点鼻・点耳・点眼 (6) 吸入 6) 吸引 口腔・鼻腔・気管 7) 酸素療法 経鼻・マスク・テント 8) 抑制 体幹の抑制, 四肢の抑制	演習	塩屋 梓
7・8	4. 症状別にみる子どもの看護 1) 子どもにみられる症状の特徴と看護の実際 (1) 痛み (2) 発熱 (3) けいれん (4) 脱水 (5) 嘔吐・下痢 (6) 発疹	講義	上野 敏幸
9	5. 状況別にみる子どもと家族の看護	講義	中島 優貴

	<p>1) 外来における子どもと家族の看護 (1) 外来看護の特徴と看護の役割 (2) 外来における子どもと家族への看護の実際</p> <p>2) 救急における子どもと家族の看護 (1) 小児救急外来を訪れる子どもの特徴 (2) 子どもの事故・外傷の特徴 (3) 小児救急における看護対応 (4) 子どもの救急処置（救急蘇生法など）</p>		中島 優貴
10	<p>6. 入院における子どもと家族の看護 1) 入院が子どもと家族に及ぼす影響 2) 子どもの入院環境 3) 子どもの入院と子ども・家族の看護</p>	講義	
11	<p>7. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 1) 検査を受ける子どもの反応とプレパレーション 2) 検査・処置中の子どもの安全・安楽への援助 3) 検査・処置を受ける子どもの家族への援助</p> <p>8. 手術を受ける子どもと家族の看護 1) 手術を受ける子どもの反応とプレパレーション 2) 手術を受ける子どもの看護 3) 手術を受ける子どもの家族への援助</p>	講義・演習	
12	<p>9. 長期療養が必要な子どもと家族の看護 1) 長期療養が必要な子どもと家族の特徴 2) 長期入院（療養）が子どもと家族に及ぼす影響 3) 退院から在宅への移行期の子どもと家族への影響</p> <p>10. 終末期の子どもと家族の看護 1) 身体的・精神的苦痛への援助 2) 生命・死についてのとらえかた 3) 子どもと家族の看護 4) 子どもをなくした家族の看護 5) グリーフケア</p>	講義	上野 敏幸
13・14	<p>11. 子どもの虐待と看護 1) 児童虐待防止等に関する法律 2) 子どもの虐待の現状と対策の経緯 3) 子どもの虐待とは 4) リスク要因と発生予防・早期発見 5) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 6) 求められるケア</p>	講義	
15・16	<p>12. 健康障害別看護</p>	講義	中島 優貴

15・16	1)低出生体重児（未熟児）の看護 (1)低出生体重児の看護の役割 (2)低出生体重児の環境 (3)新生児集中治療室(NICU)入院中の看護 (4)新生児治療回復室(GCU)入院中の看護 (5)ディベロップメンタルケア (6)家族への看護 (7)退院後のフォローアップ、輸液管理	講義	中島 優貴	
	中間試験（45分間）	試験（評価）	上野 敏幸	
17	2)呼吸器疾患のある子どもの看護 肺炎の子ども	講義	山口 ひかり 深川 絢加	
18	3)循環器疾患のある子どもの看護 (1)ファロー四徴症 (2)川崎病	講義		
19	4)消化器疾患のある子どもの看護 (1)形態異常のある疾患の看護 ①唇裂・口蓋裂 ②幽門狭窄症 ③鎖肛 ④胆道閉鎖症 (2)その他の消化器疾患のある子どもの看護 ①腸重積症	講義		
20	5)アレルギー性疾患のある子どもの看護 (1)気管支喘息 (2)食物アレルギー 6)感染症のある子どもの看護 (1)麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、百日咳、 髄膜炎	講義		
21	7)腎・泌尿器疾患のある子どもの看護 (1)腎疾患 ネフローゼ症候群 (2)泌尿器疾患 尿路感染症	講義		
22	8)代謝性疾患 (1)1型糖尿病 9)運動器疾患のある子どもの看護 (1)先天性股関節脱臼 (2)骨折	講義		
23	10)神経疾患のある子どもの看護 (1)けいれんのある子どもの看護 ①てんかん ②熱性けいれん ③脳性麻痺	講義		
24	11)精神疾患のある子どもの看護 (1)不安が強く不登校となった神経症 (2)注意欠陥／多動性障害の子どもの看護	講義		
25	12)重症心身障害児（者） (1)重症心身障害児（者）の特徴 (2)重症心身障害児（者）の看護の実際	講義		山田 祐子

	(3)在宅療養に向けての支援		
26～30	<p>13. 事例演習（ネフローゼ症候群患児の事例）</p> <p>1) 情報収集の視点</p> <p>(1) 情報収集の方法</p> <p>(2) 発達段階と必要な情報</p> <p>(3) 対象患児の成長・発達段階</p> <p>(4) 基本的な生活習慣の獲得・自立度</p> <p>(5) 人間関係</p> <p>(6) 病気・治療・看護</p> <p>2) 分析の視点</p> <p>(1) 健康問題と子どもの身体的特徴の関連</p> <p>(2) 健康問題が成長・発達に及ぼす影響</p> <p>①子どもの病気の受け止め、理解</p> <p>②病気・治療に伴うストレス</p> <p>(3) 健康問題が家族に及ぼす影響と家族の反応</p> <p>(4) 養育上の家族の負担・ストレス</p> <p>3) 介入計画立案</p> <p>(1) 成長・発達段階、健康の段階を考慮した具体策</p> <p>(2) 家族も含めた援助</p> <p>(3) 移行支援</p>	講義・演習	山田 祐子
	終講試験（45 分間）	試験（評価）	単位認定者 上野 敏幸